

早稲田大学 社会科学部 政治・経済 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	大問4題は例年と同じ。 国際経済が2題、都市問題、エネルギー問題が1題ずつ。超難問が含まれるのは相変わらずの傾向。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅰ	ヒトの国際的移動	問1・2の数字は常識として覚えておきたい。問3には明らかな選択肢がある。問5・6はいまでは基礎知識。問7ASEAN加盟の10カ国は覚えておきたい。問8は難しい。問9は時事、自衛隊がPKOに参加して派遣されるのではないかと予想された地。問10は常識。	標準
Ⅱ	都市問題・地方自治	問1・2・4は常識。問3はやや難しい。問5・6の都市計画法は難問。問8は細かいが資料集には載っている。問9・10は基礎知識。	標準
Ⅲ	資源・エネルギー問題	問1・4～7は難問。問2では石炭使用の多いのが中国。問3では航空機はアメリカから、衣類は中国からの輸入が多いという知識が必要となる。問8はじっくり考えればできる。問9は基礎知識。問10は天然ガスの特性を知っていれば解けるが、TV・新聞の一口知識か、それともは理科の問題か。	難
Ⅳ	直接投資の動向	問1～3は標準知識で解ける。問4・5は内容が詳しいが明らかに誤っている選択肢があるので、正解は得られよう。問6ではイを正解に予定したのであろう。イ以外はすべて正しい。「国民総生産の伸び率を経済成長率と呼ぶ」のは正しいが、いまは国内総生産の伸び	標準

		率も経済成長率と呼んでいるので、この点は間違い。 だから正解はなしとしよう。問8は標準。問9・10 の出生率は常識。	
--	--	--	--

[総合コメント]

早稲田大学の他の学部よりは答えやすい問題が多いが、Ⅲのような問題も一題はある。

基礎的・標準的知識で解ける問題を確実にものにすることが必要。そうすれば、他の受験生と大きな差がつくことはないだろう。